高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任　延寿正義
発行責任　東谷壮一郎

生徒の声を求む

―新執行部成立―

昭和五十五年度第一期自治会執行部の任期が、二月末日に切れた。それに伴い選挙管理委員会が結成され第二期自治会役員選挙のために立候補者を募集した。ところが締め切りを再々延長したにもかかわらず、立候補者は一人もなく、執行部不成立となっていた。

新学期が始まると、執行部不成立のままでは自治会としての仕事ができないということで、議会ではその打開策についての討議がなされた。その結果「部会代行制」「執行委員制」の二つが提案され、さらに検討が重ねられた。またその一方では立候補者を勧誘していた。

五月中旬、立候補希望者が現われて、今まで見通しの暗かった自治会役員選挙にも、ようやく明るいきざしが見えてきた。議会は選挙管理委員会を結成して選挙に備えた。また、立候補者はポスターを貼ったり、登校時には正門・生徒通用門に立ってPR等をした。

信任投票は六月十二日（金）四時間目のホームルーム（二年生は修学旅行の説明のため、放課後）に行われた。開票の結果、すべての立候補者が信任され、ことに昭和五十六年度第一期自治会執行部が成立した。新執行部の顔ぶれは次の通りである。

会長　二年七組　上田　美樹
副会長
二年六組　井福　利恵
書記
二年三組　藤原久美子
会計
二年三組　雨森　信雄
一年学年代表
一年八組　和田　勝彦
二年学年代表
二年三組　長谷　数英
二年七組　久保田雅美

なお一年学年代表の女子と、三年学年代表は立候補者がなかったことを付加しておく。

新聞部では執行部成立にあたり、会長にこれからの活動について述べてもらった。

―おおむねの活動方針として、どういうことを考えているか

今まで執行部がなかったため、できなかったこと（例えば、生徒心得の改正、文化祭二分化についての問題の処理など）が多い。生徒のための自治会活動に生徒の意見が通っていないのが現状だった。またその意見を通す機関もなかった。執行部が成立した今からは生徒の意見をどんどん取り入れていきたい。

―阿倍高の二大行事である体育大会や文化祭を、執行部としてはどのように進めていきたいか

○体育大会について

現在は体育大会実行委員会が仕事を進めているが、生徒からの要望があれば、同実行委員会側と生徒側とのパイプになって活動したい。

○文化祭について

ただ今、文化祭実行委員会の方で諸事項を検討中である。今年は二分化などの問題をかかえているので慎重に対処したい。

―最後に、生徒側に対しての要望を

みんなは自分たちの周りのことについて無関心すぎると思う。もっと今の事態を認識してもらいたい。そして、もし何か意見があればどしどし言ってほしい。執行部は、このような生徒の声が寄せられて初めて行動できるものだから、生徒の意見が何よりも大切なのだ。体育大会や文化祭は生徒のものであって、他の誰がするものでもないということを、みんなが感じてくれればいいと思う。

以上がインタビューの結果である。執行部の活動は生徒の意見から始まる。新執行部に期待すると共に、生徒からの意見も待ちたい。

今日なしうることに、
全力を注げ。
ニュートン

部説

問題多い二分化策

文化祭

夏休みを前にして、各クラスでは二学期に行われる文化祭についての話し合いが進められていることだろう。一年間のメーンイベントとも言うべき文化祭。それが今年は全体に色々と趣向が凝らされて行われようとしている。昨年までのあらゆる経験を生かして、阿倍高の文化祭は大改革がなされるわけだ。しかしあまりにも大きな変貌だけに、生徒の戸惑いや不安も隠せないようだ。

まず内容に関しては、賛否両論である。クラスで行うディスコ・模擬店・お化け屋敷等の禁止、その代わりに計画されている全体行事としてのディスコや四つのグループ（青龍・白虎・玄武・朱雀）で行われる模擬店等は初めての試みである。生徒側からしてみれば、毎年クラスで行うディスコや模擬店には人気が集まるため、これらの禁止には反対意見も少なくない。しかし毎年のようにお祭り騒ぎだけで終ってしまう文化祭ではいけない。今年はクラスが協力し合って取り組めるような、文化祭となるよう努めたいものだ。

内容的には充実されてきた反面、他方では問題点もでてきた。まずは昨年まで二日続きで行われたものを、九月八日と十月四日に二分化した事である。この事はすでに決定している。二分化されたのは体育大会と文化祭との間の期間が一週間しかなかったため各行事の準備が忙しすぎる、行事関係の仕事が重なって一つの仕事にうちこめないなどと生徒から要望が出たからである。しかし二分化によってこの点が改善されたとは思えないのだ。クラス参加の文化祭には全員が力を注ぐ事は可能かもしれない。とは言っても、この文化祭は夏休みが明けてすぐの九月八日に予定されている。夏休みの間に各クラスで準備が急ピッチで進められなくてはならないだろう。ところが夏休みというのはクラスで集まるのが難しいものだ。そんな中で〝クラスが一致団結した文化的内容の深いもの〟ができるだろうか。文化部会によると、体育大会との関係上、この日を選んだそうだ。九月初旬は短縮授業といっても一、二日には実力テストも予定されており、やはり忙しい日程を消化しなくてはならないようだ。それならいっそ二分化せずに例年通りの文化祭の方がよかったように思う。

またこの二分化について問題点がもう一つ。文化部の低迷状態を救う意味で、文化祭を盛大に行うことが文化祭基本方針に書かれている。にもかかわらず、今の計画のまま二分化が行われると第一日目がクラス発表となるため、文化部の発表が一日に減らされる事になる。これは基本方針に大きく反しているではないか。文化部の低迷が叫ばれている今、文化祭での発表が一般生徒に文化部の活動を理解してもらえる最大のチャンスである。それに文化部の発表の日つまり第二回目の文化祭ではグランドを使用しての模擬店も行われる予定で、果たして文化部に一般の人が目を向けてくれるかどうか疑問だ。各クラブでの内容的に目をひく発表を呼びかけられているが、これもなかなか難しいようだ。一年間の文化部の活動の成果が十分出せる文化祭になるよう考慮してもらいたい。

〝無気力阿倍高生〟の名を返上する意味でも、今年の文化祭は大きな意義をもつ。あらゆる問題点をかかえつつ文化祭の大改革はゆっくりと進められているのだ。何でも新しい事を始める時は戸惑いや、不安はつきものだ。それ故、生徒一人一人の意見というのは大切なのだ。阿倍高生全員が満足する文化祭になるよう、個人がもっと積極的に文化祭に取り組むべきである。

新種目も登場

体育大会

「燃えろ阿倍高生!!」をスローガンに掲げる第三十五回体育大会は、九月二十七日（雨天の場合は翌日に順延）に第二グラウンドで行なわれる。大会の運営にあたって、運動部会が出した体育大会基本方針原案には、クラスの和と学年のつながり、則ち大きな友情を作り上げてほしい事。早く無気力さを打破してほしい事などが記されている。

春のクラスマッチでは、「ふれあい」を作るために対戦相手を決めるくじ引きの方法を変え、隣のクラスだけでなく、他のクラスと対戦できるようにしたり、試合数をふやしたりした。こうして築かれたものの延長線が今回の大会であって、これを必ず成功させてほしい事もうかがえる。そしてこの原案から、今回はかなり、ムード作りに力を入れている事が感じられた運動部会の顧問、阿波先生は、「生徒がこれに積極的に協力して、自分達で盛り上げてくれれば」と願っておられた。

今回の大会は前回と違い一部種目変更がある。まず新種目として「A地点からD地点まで」と、「STP玉入れ」が加わった。「A地点からD地点まで」は男女入り混って、多くの障害を乗りこえ、A地点からD地点まで到達する時間を競うものである。この種目のねらいは、男女の交流を深める、チームワークを作るという事である。これは数少ないクラス対抗の種目でもある。もう一つの「STP玉入れ」はS（student 生徒），T（teacher 教師），P（parent 保護者）のつながりを深めるのがねらいである。ルールは青龍なら青龍のかご、玄武なら玄武のかごに玉を入れなければ、点数にならない。この種目の出場者は、教師・保護者・生徒（応援団）から適当に選出するそうだ。

一方、今年になって姿を消した種目もある。「六〇〇・八〇〇メートル走」や「プレイバックパート五〇」（後ろ向きになって五〇〇メートル走る種目）などである。理由として、「持久走」は、クラスで選手選出の時、遅い者が無理やり選ばれる場合があり、差がありすぎて、〝競う〟という点に欠け、見る人もつまらなくなるとの事。「プレイバックパート五〇」は毎年けが人が出て危険だという事だ。他の種目は昨年同様行なわれる予定だそうだ。

また応援活動も変更がある。応援団に積極的に三年生が参加する事になった。やはり一・二年生だけではよいものができないという理由だそうだ。三年生が加わる事により、一層充実した応援が期待できる。

種目別の練習は二学期に入ってからしかできなく、ダラダラした状態では間に合わない。「我等阿倍高生ここに在り」を合言葉に、全員が一致団結して、大会を成功させようではないか。

研修旅行予告

われわれ新聞部は毎年夏休みに、その年話題になっている社会問題を追求するため研修旅行を行っています。今年は七月二十一日から三泊四日で福井県若狭高浜方面に「原子力発電所」の問題について、取材に行く事になりました。

高浜に着くと、四つの班に分かれ、それぞれ原発・市役所・住民・観光客にインタビューします。宿に帰ってから、出された意見をまとめる。これを四日間行い、大阪に帰ってきてから再度話し合い、結論を出す。そして特集として文化祭の新聞に載せる。これが研修旅行の簡単な予定です。

しかし「今年の問題は大きすぎる」という意見もあり、部員の顔にも不安の色がかくせませんが、「やってみよう!」という活気あふれる意見も多数出ました。そして今では、全部員が「必ず成功させてみせる」という意気込みでがんばっています。みなさん、特集記事を楽しみに待っていて下さい。

針

先頃今年の文化祭基本方針原案が、議会で承認された。それによると今年の文化祭は、夏休み明けの九月八日と十月四日に分けられるという。そうすれば、クラス参加（文化部に所属している者はクラブ発表）体育大会の準備などこれまで重複していた仕事がやりやすくなり、比較的負担が軽くなるという▼昨年の文化祭を考えれば、よくあれだけやれたものだと思うほど忙しかった展示の準備。それが楽になるというのだからありがたい。さぞかし生徒も賛成していることだろうと思うと、意外や意外。あまり歓迎されていないようだ▼先月十二日に執行部が成立するまで、執行部不在という状態が続いていた。その間に文化祭二分化案が先生方の間で進められていたらしい。なぜその時点で一般生徒なり、文化クラブなりに連絡がなかったのだろう。文化部の部長と話し合う時間は十分にあったはずだ。なのに今学期になって急に文化祭二分化案を押しつけられるのはちょっといただけない、こうなれば生徒に反感を持たれるのも当然だ▼二・三年生は昨年までの準備の状態を知っているので、一年生に比べて二分化に対する戸惑いも多いのではないか。このままだと準備の大半を夏休みに済ませなければならない。生徒は果たして集まるだろうか。文化クラブの者にとっては、去年より夏休みに活動する時間が限られてくるので大変苦しいはずだ▼文化部会曰く「失敗してもいい、ただ何かが残ればいいのだ」これなら文化祭が失敗に終るのが目に見えているかのようだ。今年の文化祭は後輩への布石である。その点の理解がまだ甘い。もし、文化祭が失敗することになれば、一体何が残るのか。どうやら、文化部会は現実論より観念論の方がお得意のようだ。

文化祭〃衣替え〃

各クラス参加状況

例年、十月初旬に二日間に渡って行われていた文化祭が、体育大会をはさんで二分化されることに決定した。第一回目が九月八日。この日はクラスの一般参加のみが行われる。第二回目は十月四日で、文化部の発表、模擬店、文化部会主催のディスコ、そして文化祭・体育大会のしめくくりとしての、後夜祭などが予定されている。

今年のクラス一般参加は単なるお祭り騒ぎで終らせず、クラス全員が一致団結した内容の深いものにするため、インスタント的なものを避けようということでディスコ、模擬店、おばけ屋敷は禁止された。また、学校全体が文化祭に集中し協力するよう、全員参加となった。その後各H・Rで討議された結果、おおよそ次のように決められている（七月十日現在）

一年一組　合奏・合唱
バンド演奏、ものまね、台所用品を使った演奏。

一年二組　合唱
ピアノ伴奏を入れ、各パートに分かれて合唱。

一年三組　研究発表
各学校について。

一年四組　コメディー
オリジナル・パロディーショー「ぼくたちげんきん族（仮題）」テレビ番組「おれたちひょうきん族」風のもので、パロディーを主とし、劇、ベストテン、でっちあげニュース、CM、ものまねなどを盛り込む。

一年五組　合奏・合唱
ギターなどを使った演奏合唱。

一年六組　合奏・合唱
ギター、ピアノ、家庭用品などを使った演奏。各パートに分かれて合唱。

一年七組　合唱
フォーク、ポピュラー、アニメソングなどの曲をメドレーにして歌う。

一年八組　ライブハウス
五つのグループに分かれて、バンド演奏などを行う。

二年一組　コメディー
テレビ番組「良い子・悪い子・普通の子」のパロディー。

二年二組　サーカス
動物などのぬいぐるみを着ていろいろな曲芸をする。

二年三組　演劇
「森は生きている」ままはは母や姉にいじめられる女の子が、妖精たちに助けられる話。

二年四組　映画（自作）
今、高校二年生は何を思っているのかを、進学、就職、友人関係、恋愛などの観点から考える作品

二年五組　演劇
英語劇「桃太郎」

二年六組　演劇
安部公房の「奴隷狩り」

二年七組　演劇（自作）
学園もの。題、内容については未定。

二年八組　合唱
ピアノ、ギターなどの伴奏で合唱。曲は主に歌謡曲。

二年九組　演劇（自作）
いろいろな昔話の主人公をおりまぜてのオリジナル劇。

三年一組　ライブハウス
カセットテープで音楽を流したり、バンド演奏したりする。人間と音楽との根源を追求。

三年二組　演劇
二十分ぐらいのコメディー劇。題・内容は未定。

三年三組　映画（自作）
学園もの。ある教師の陰謀を、団結した生徒たちがあばいてゆくというストーリー。

三年四組　映画・演劇
原作に基いた、時代劇の映画。合い間に名場面やCMを実演。

三年五組　演劇
喜劇。題、内容については未定。

三年六組　研究発表
阿倍高の先生について。インタビューの結果、似顔絵、写真などをまとめて展示。

三年七組　研究発表
交通機関のモデル展示。

三年八組　演劇・アンケート

詳しい内容については未定。

今年は音楽関係（合唱・合奏など）、演劇を行うクラスが多く、旧講堂だけではまかないきれないため、音楽関係のクラスの発表は体育館で行われることになった。

今回初めての試みである二分化は、体育大会との仕事の重複を防ぐためと、年に一度の文化部の発表をもっと盛大なものにしようということで出された案である。そしてその日程について文化部会で検討された結果、残念ながらクラス参加の一般公開はできなくなった。その理由は、九月一・二日と一・二年生の実力テストがあり、六日（日曜日）にすると準備が十分できないことと、同日阿倍高の卒業生の同窓会（芝蘭会）があるためである。

第二回目に予定されている模擬店、ディスコなどについてはまだ詳しい内容が決定されていない。文化部会によると、お祭り的要素を多少とり入れた、楽しく有意義なものにしたいということである。

そして文化祭全行事の終了後、集会部会の主催で後夜祭が行われる。時間は五時から七時まで（ただし、OB会などのある文化クラブの部員については検討中）である。その内容としては、体育大会のグループ（朱雀・白虎・青龍・玄武）別のかくし芸大会、先生・生徒の一般参加、その他に表彰式、ファイヤーストームを囲んでのフォークダンスなどが予定されている。また、今回は出場グループ全部に表彰状が贈られるということだ。後夜祭的な行事は、昨年のファイヤーストームに続いて二度目であるが、今年は昨年とは違った、より一層素晴らしいものにしたいと考えられている。

留学体験談

―自由な国アメリカ―

去る六月の第一週から第二週にかけて、教育実習生が訪れた。英語科の実習生の中に、アメリカ留学の体験を持つ西本友子先生がおられた。そこで今回は西本先生にアメリカのことについてインタビューしてみた。

――アメリカへ留学されたそうですが、日程と滞在所について教えて下さい。

昭和五十五年三月二十六日から翌年の三月三十一日までの約一年間で、滞在所はロサンゼルス東方のサンベルナルディロという田舎町です。

――留学の理由は？

日本の学校制度のレールの上を歩いて来たから、一度そこから抜け出してみたかった。それと、自分がどこまでやれるかという好奇心や、半分以上形作られていた生活から抜け出したかったからです。

――留学したことによって得たもので特に大きかったものは？

自分の心を開いて話し合える人が、たくさんできたことかな。

――ホームシックにはかからなかったんですか？

いいえ、少しの間でしたがかかりましたよ。二カ月程一軒家に一人暮しで、その上友達は夏休みでみんな故郷へ帰ってしまうし、とても孤独でした。そんな時は〃電話の貯金〃をしたものです。

――電話の貯金？

ええ、今日は寂しいから電話しようとは思うものの明日はもっと寂しくなるかもしれない。毎日電話すればいいんですが、そういうわけにもいかないので電話をかける回数を貯金するわけです。そんな経験をしたせいか孤独には強くなったと思いますよ。

――質問は変りますが、アメリカと日本の大学のシステムや、雰囲気の違いは？

一クラス二十人程度でとても規模が小さく、先生の注意が行き届いています。そして高校の授業みたいにどんどん指名していって答えを求めるんですよ。私の通っている日本の大学（西本先生は関西大学在学中）とはそういう点が違うようです。大学の雰囲気で大きく違うところは、人種が多いっていうことかな。それと、先に言ったようにクラスも小さいせいか、教授と学生との関係が親密で、それになんといっても自由ですね。授業料も安いし…。

――大学入試についてはどうですか？

日本の受験戦争のように厳しくないけど、入学してからは確かにしんどいよ。アメリカの大学は三学期制で、一年間に六回ものテストがあるの。そんな風だから何年も大学にお世話になっている人もいるみたい。

――なるほど。ところでアメリカと日本の生活習慣などの相違を聞かせて下さい。

そうね、お風呂にあまり入らないわね。シャワーだけを浴びることが多いようです。それと、日本人に比べてパーティー好きやね。

――アメリカ人の気性などは日本人に比べてどうですか？

気性はのんびりしてるよ。それに自分の時間を大切にするしね。それと特に日本人と違うところは、YES・NOがはっきりしていることと、遠慮しないこと、感情を率直に表わすことね。

――最後にアメリカの人々の日本観を聞かせて下さい。

たいていの人は日本のことを理解しているわ。けどまだ中国と区別することのできない人もいるみたい。

以上がインタビューの内容である。西本先生は終始「アメリカはいい国よ。みんなも一度、行ったらいいわ」とおっしゃっていた。阿倍高生のみんなも西本先生の経験を参考にして、将来、留学するのも良いだろう。

「アメリカはいい国よ」

クラブスポット

実力強化に集中！

軟式庭球部

今回のクラブスポットは夏の厳しい暑さにも負けず頑張っているクラブの中から、軟式庭球部を訪ねてみた。

現在の部員数は、三年生六名、二年生十四名、一年生は女子のみ四名の計二十四名である。また活動時間は、月曜日から金曜日は六時まで、土曜日は五時までだ。

練習内容は、十分ずつ三セットの乱打から始まり、基本ボレー、上げボールなどの前衛、後衛の練習へと続く。そして「サーレ」と呼ばれているサーブとレシーブの交換練習で終了する。また、雨のためコートが使用できない場合は、外周を走ったり、柔軟体操などの基礎練習を行ったりしているそうだ。

定期戦は、個人戦が、春・夏・秋の三回、団体戦が春・夏の二回行われている。また、五月五日に阪南高校で行われたブロック大会において、二年生が見事、準優勝に輝いた。

今年の二年生は大会でシード（一回戦で強い高校同士が対戦するのを避けるためのもの）をもらっているため、この夏が終ってから引退する予定である（例年は二年生の夏に引退している）

キャプテンに、今年の一年生に対する感想を聞くと「とても熱心に練習してくれる。これからは先輩以上に努力して欲しい」という言葉が返ってきた。また、新入部員から見た先輩の印象は「おもしろい」「上手」「優しい」「話しやすい」などいろいろである。この部の特徴を聞いてみると「みんな面白い部員で、愉快なクラブである」ということだ。

この部の悩みは、コートが狭いということ、雨が降った後、コートの中を歩く人がいて乾いてからも足跡がついていて、コートがまともに使えないこと、練習中に横にある通路を人が通るので邪魔になることなどいろいろあるようだ。

夏休みの練習は、男女別に午前・午後と分け、活動時間を有効に使って厳しい練習をするそうだ。その理由は、暑さを乗り越えて体力をつけ、実力強化をはかるためということである。

顧問の先生方は「これからもまじめにこつこつと努力して頑張って欲しい」「厳しい練習にたえていって欲しい」とおっしゃっていた。

現在、この部は夏の中央大会（定期戦のこと）を目標に練習を重ねている。

図書館紹介

夏休みに活用

明日から始まる夏休みのプランに図書館で読書や勉強する事を考えている人も多いと思う。そこで市内にあるいくつかの図書館を紹介しよう。

☆府立中之島図書館

地下鉄淀屋橋駅下車、市役所の東にあるレンガ造りの建物が、中之島図書館である。同図書館の蔵書は約七十万冊で、公共図書館では日本一である。閲覧室は二、三階にあり、ジャンル別に八つの部屋に分かれている。そのため、他のジャンルの本が読みたくなると別の部屋に移動しなければならないのが不便だ。二階には学習参考書の部屋もある。自習室は三階にあるが一階の受付で専用の札をもらわなければ入れない。座席数は約二百三十席となっている。

☆府立夕陽丘図書館

夕陽丘図書館は、地下鉄四天王寺前夕陽丘駅から南へ徒歩三分の所にある。同館の閲覧室は二つあり、一階にある第一閲覧室には、社会科学以外のすべてのジャンルの本が置いてある。ただ、現代小説の冊数が少ないのが残念だ。自習室は地下にあり、約二百名が収容可能だ。全体に座席数も少なく、ゆったりと利用できるのが同館の特色だと言えよう。

☆市立中央図書館

地下鉄西長堀駅のすぐ前にある中央図書館は、大きな割には親しめる図書館だと言える。閲覧室は、実用・娯楽書等を置いた「読み物部」と、文芸・専門書等を置いた「分科閲覧室」とに分かれている。「読み物部」には、青少年向きの本も多く、高校生の読書に適している。三階にある自習室は、約六百五十名が収容できる。自習室の向かいの食堂には、文房具も売っているので利用すると便利である。

☆市立天王寺図書館

天王寺公園の中にある天王寺図書館は、現在市内にある図書館の中で二番目に古い。二階が一般閲覧室となっている。本棚の数が多いため、少し窮屈なようだ。自習室は三階にあって、男女別々の部屋に分かれている。公園の中にあるため、少々騒がしいのが難点だ。

☆市立阿倍野図書館

阿倍野図書館は、地下鉄西田辺駅から徒歩五分、阪南公設市場の二階にある。少々入り込んだ所にあるため、見つけにくい。小さな図書館なので、娯楽・実用書が中心で、専門書は少ない。公設市場の二階にあるせいか子供が多く、いつも賑やかだ。大きな図書館より気軽に利用できるのが一番の利点だ。

☆市立生野図書館

二カ月前に開館したばかりの生野図書館は、生野区大池橋の防災センターの三階にある。まだ開館して間もないため、蔵書の数は少ないが、新刊書の占める割合が大きい。

この他にも、第六学区付近では住之江図書館等がある。自分に合った雰囲気の図書館を選び、大いに活用してほしい。

編集後記

期末テストが終わり、早くも今日は終業式。明日から待ちに待った夏休みが始まりますね。

さて、今学期は、今まで不成立だった執行部が成立しました。これによって、阿倍高がどのように変わっていくのか、今後の活躍が期待されます。また、文化祭も昨年までと違った趣向で行われることになり、各H・Rで、いろいろと内容についての討議がなされたことでしょう。

ところで皆さんは、もう夏休みの計画を立てましたか？一面に載せてあるように、わが新聞部は、夏休みを利用して研修旅行に行きます。ここでは、社会問題について取り上げ、部員全員が協力してそれに取り組みます。皆さんも、この夏休みを悔いのないよう有意義なものにして下さい。それでは二学期も、元気な顔で会いましょう！